

国語科 学習指導案

東大阪市立弥刀小学校

指導者 大山 仁世

1. 日 時 令和6年11月14日(木) 第5時限 14:15～15:00

2. 場 所 第5学年1組教室

3. 学年・組 第5学年1組(22名)

4. 単元名 「文化を受けつぐ」ことについて考えよう「和の文化を受けつぐ 一和菓子をさぐる」(東京書籍 五年)

5. 単元の目標

(1) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。

[知識及び技能] (2) イ

(2) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。

[思考力、判断力、表現力等] C (1) ウ

(3) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

[思考力、判断力、表現力等] C (1) オ

(4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

6. 本単元で取り組む言語活動

情報を重ね合わせ、自分の考えをふりかえりに書き交流する。

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。 (2) イ	①「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。C (1) ウ ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。C (1) オ	進んで情報を重ね合わせて読み、学習の見通しを持って自分の考えを交流しようとしている。

8. 指導にあたって

(1) 児童観

省略

省略

(2) 教材観

本教材は、伝統的な和の文化に関するものの中でも児童が想起しやすい和菓子を題材としたものであり、序論・本論・結論の構成が明確であり、年表や写真、インタビュー記事といった資料と関連づけることでより理解が深まる教材となっている。和菓子を「歴史」「ほかの文化との関わり」「支える人」の三つの観点から説明しており、筆者の「文化を受けつぐ」ことについての考えが分かりやすい。序論は、日本での伝統的な文化の中で食べられてきた和菓子が現代に受け継がれてきたことが書かれている。本論の一つ目は、和菓子に影響を与えたものとして「唐菓子」「点心」「南蛮菓子」の三つが書かれている。そして砂糖の特性を生かした技術の発展に加え、西洋からの「洋菓子」と区別するものとして、日本固有の「和菓子」となったことが書かれている。本論の二つ目は、ほかの文化との関わりについて年中行事として子どもの成長や家族の健康など、人々の願いや思いが込められ生活に根付いたことが書かれている。桃の節句、端午の節句など具体的な例も挙げられている。同じように日本の文化である茶道とも関係しており、見た目の印象や言葉の響きを大切にすることが、多くの和の文化に共通する特徴であると書かれている。本論の三つ目は、支える人々として職人の技術が受けつがれてきたことや、季節ごとの自然の変化を感じ取ったりほかの日本文化に親しんだりすることを大切にしていることが書かれている。また、手作業による道具や材料の作り方も受けつがれていることも書かれている。そして、作り手から食べる側へ視点を転換して自分も文化を支える一人であることを筆者は考えている。結論は、和菓子に限らず、筆やろうそく、焼き物や漆器、和紙、織物なども伝統的な和の文化として、歴史や文化との関わり、どんな人が支えているのかを考えることで、和の文化を受けつぐことができると書かれている。

今年度の教科書改訂により、和菓子職人ビルさんのインタビュー記事が加えられた。文化を支える人である職人の生の声に触れることができ、「文化を受けつぐ」ことについて考えることができる。記事の文章には、「グアム出身」「なじみのない」「理解できず苦労した」など和の文化を理解する難しさと苦労や、「おく深い世界」「15年以上」など長く携わっている職人でさえも感じるおく深さが書かれている。さらに、継続した努力と和菓子作りに向き合う姿勢が表れていることも書かれている。

本単元は、「読むこと（説明文）」の「情報を活用する」系統に位置づけられている。四下『くらしの中の和と洋』での、目的に合わせて要約することや、五年『インターネットは冒険だ』での、要旨を捉える学習とのつながりを意識していきたい。

(3) 指導観

本単元では、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。」ことを目標に取り組んでいく。児童にはつけない力として「文章と図表などを結び付け必要な情報を見つけ、考えをまとめよう。」を提示し、「文化を受けつぐ」ということについて本論のどの部分とつながるのかを意識させたい。序論、本論、結論の文章構成を捉え筆者の考えを確かめて、文化を受け継ぐということについてどんな観点から、どのようなことが説明されているかの論の進め方についても取り組んでいく。題名の中にもある和の文

化という言葉や、教科書の身の回りにある和菓子の写真から、和についてどのようなことがあるかを考えさせて、衣食住のどれにおいても自分たちにとって身近なことであることに気付かせたい。

本論については、問いかけや語りかけの言葉に線を引き、文章の構成について板書する。論の進め方については、本文の「まず」「次に」「このように」などのつなぐ言葉に線を引き、文章構成を確認する。そして、筆者が本論を「歴史」「ほかの文化との関わり」「支える人」の3つの観点で説明していることに気付かせる。児童が整理して考えられるようにロイロノートの共有ノートを活用する。シンキングツールで3つの観点が1つのテキストでまとめられるようにしたい。ふりかえりに関しても、共有ノートに書くことで他の児童の考えなどを見られるようにしておく。年表や写真と文章とを関連づけて書いているふりかえりを紹介して、文章と図表などを結びつけ、必要な情報を見つけることを意識させる。

資料のインタビュー記事から、本文と重なる部分を考えさせて、段落番号をインタビュー記事の方に書き込ませる。本文とインタビュー記事を重ね合わせて考えるために、インタビュー記事の語り手が和菓子職人であることを確認させ、職人の思いが分かるところを見つけさせる。本文の13段落や、16段落の内容と重ね合わせて、「文化を受けつぐ」ことについて自分の考えをまとめる。本文だけでは分からなかったことが、具体的に説明されていることについても重ね合わせて読むこと意識させる。

自分の考えを広げるという見通しを持ち、他の児童と似ているところや違うところに注目して交流する活動を設定した。そして、交流してことで共感したことや新しく気づいたことを発表させる。

9. 単元の指導と評価の計画（全10時間）◎…記録に残す評価 ○…指導に生かす評価

時	主な学習内容	知技	思判表	主体	評価規準・評価方法
1	●教材文の範読を聞き、初発の感想を書く。 ・気づいたこと、疑問に思ったことを書く。		○②		文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。【思・判・表②】〈行動観察・ノート〉
2	●初発の感想を交流する。 ・前時に書いたことをもとに交流する。 ・単元の学習の見通しを立て、「つきたい力」を確かめる。			○	進んで情報を重ね合わせて読み、学習の見通しを持って自分の考えを交流しようとしている。【主】〈行動観察〉
3	●作品を読み取る。 ・論の進め方について考える。		○①		目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。【思・判・表①】〈行動観察・ノート〉
4	●筆者の論の進め方の工夫点、図や表がどのように文とつながっているのかを読み取る。		○①		目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりし

					ている。【思・判・表①】 〈行動観察・ノート〉
5	●本論一の筆者の論の進め方の工夫点、図や表がどのように文とつながっているのかを読み取る。 ・和菓子が変化していくことを捉える。		○①		目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。【思・判・表①】 〈行動観察・ノート〉
6	●本論二の筆者の論の進め方の工夫点、図や表がどのように文とつながっているのかを読み取る。 ・年中行事や季節などに関係していることを捉える。		○①		目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。【思・判・表①】 〈行動観察・ノート〉
7 本 時	●本論三の筆者の論の進め方の工夫点、図や表がどのように文とつながっているのかを読み取る。 ・和菓子を作る職人、道具や材料を作る人について捉える。		◎①		目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。【思・判・表①】 〈行動観察・ノート〉
8	●結論についての筆者の考えをまとめる。 ・和菓子以外にも文化があり、支える人がいることを考える。	○			情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解しノートに書いている。【知・技】〈行動観察・ノート〉
9	●インタビュー記事について考える。	◎	◎②		情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解しノートに書いている。【知・技】〈行動観察・ノート〉 文章を読んで理解した

					ことに基づいて、自分の考えをまとめている。【思・判・表②】〈行動観察・ノート〉
10	●まとめのふりかえりを書き、交流する。			◎	文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。【主】〈行動観察・ノート〉

10. 本時の展開（7/10時間目）

（1）本時の目標

目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。

（2）本時の評価規準

目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。【思・判・表①】

（3）展開

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
5分 導入	1. 前時のふりかえりを聞く。 2. 本時のめあてを確認する。 ・単元のつきたい力も確認する。	・ロイロノートの共有ノートに前時のふりかえりを残しておく。 ・前時の板書を電子黒板に映しておく。	
20分 展開	本論三を読み取ろう。		
	3. つきたい力を意識して音読する。 4. ペアやグループで交流する。 ・本論三に書かれている、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つける。	・本文の大事なところを見つけながら読むよう伝える。 ・必要な言葉や、その理由を教科書の文章や図表から考えるように促す。 〈予想される反応〉 ・職人の技術も受けつがれている。技術も和の文化だと思う。 ・和菓子を作るだけでなく、その職人を	

まとめ 15分	5. 全体で交流する。・共有ノートに題名を打ち込む。	支える道具や材料を作る職人もいる。 ・今まで長い間受けつがれてきたことがたくさんある。 ・必要な情報を本文から見つけるように促す。 ・自分の考えを教科書の文章や図表を根拠にして伝えるように声かけする。	
	6. 追発問について考える。	本論の順番について考えてみよう。	
	7. ふりかえり書く。	〈予想される反応〉 ・歴史、文化の説明を順番に理解する必要があるからだと思う。 ・序論にも同じような順番で書かれているからだと思う。 ・本文にまず、次に、このようにという言葉があるからだと思う。 ・ふりかえりに、考えが変わったり深まったりしたことや、疑問を書くように伝える。	目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。 【思・判・表①】〈行動観察・ノート〉

(4) 本時における具体的な児童の状況（※本時の評価規準に関わる場面において）

おおむね満足できる状況（B）	努力を要する状況（C）への支援
本文と写真を結び付けて必要な情報を見つけ 本文や図表などを根拠にしたり 本論1, 2, 3を比較したりする などして筆者がどのように論を進めているのかについて考えを持っている。 ・木型を使った和菓子作りはあまり知らないので、写真が使われていると思った。 ・写真の道具を見て和菓子作りだけのために作られていることがわかった。 ・歴史、文化の説明を順番に理解する必要があるからだと思う。 ・本文にまず、次に、このようにという言葉があるからだと思う。	・繰り返し出てきた語句を注目するように促す。 ・本文に書いている内容とつなげて考えるように伝える。 ・大事だと思う語句に線を引くように伝える。 ・何人かの題名を電子黒板で紹介して参考にするように伝える。 ・筆者の論の進め方に納得できるか聞く。

(5) 板書計画

文章と図表などを結びつけ、必要な情報を見つけ、考えをまとめよう。	
和の文化を受けつぐ 和菓子をさぐる	
中山 圭子 文	
めあて	本論3を読み取ろう
和菓子	外国のえいきょう 日本の文化 支えられ、受けつがれてきたのか
和菓子を作る職人	
技術	包む 焼く 流す
職人から職人へ	
感性	自然の変化 日本文化に親しむ
道具や材料を作る人	
三角べら 和ばさみ 木型	
あずき 寒天 くず粉	
食べる人	P155 挿絵
味わい楽しむ人に支えられる	
現在に受けつがれている	
本論の順番について	